

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	広域観光推進事業			事業コード	1296
所属コード	132000	課等名	観光課	係名	観光推進担当
課長名	小笠原 千春	担当者名	加藤 俊男	内線番号	3727
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 広域観光推進事業 (005-01) 一般会計 7 款 1 項 3 目 盛岡広域観光圏推進協議会事業 (005-02)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	昭和 32 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

盛岡市周辺の広域観光を推進するため、各種広域連携事業の展開及び関係団体への支援・援助を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

八幡平国立公園や外山早坂高原県立自然公園等の発展を図るなど、地域の観光産業の振興に寄与する目的で開始されたほか、盛岡広域圏 8 市町村と宮古市、岩泉町、秋田県鹿角市、小坂町により滞在型観光等の促進に向けて平成 22 年 2 月、盛岡・八幡平広域観光推進協議会が設立された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

東日本大震災や景気の低迷等により、観光客の入込数が減少している。また、厳しい財政状況により負担金の削減が考えられるため、広域団体との連携を強化し、効率的かつ積極的な観光客誘致が求められている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

外山早坂高原県立自然公園協会などの広域観光団体

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 広域観光団体数	団体	5	5	5	5	5
B 市内への観光客入り込み数	万人回	466	471	472	490	497
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

盛岡周辺の広域連携事業を推進するため関係団体への支援及び援助を行った。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 広域観光団体への助成件数	団体	5	5	5	5	5
B 観光案内所案内取扱件数	件	27,572	26,283	25,037	33,000	28,392
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

観光客を確保する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 市内への観光客入り込み数	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	万人回	466	471	472	490	497
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	① 国	千円	0	0	0	0	0
	② 県	千円	0	0	0	0	0
	③ 地方債	千円	0	0	0	0	0
	④ 一般財源	千円	11,448	11,448	11,448	11,448	11,448
	⑤ その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	11,448	11,448	11,448	11,448	11,448
人件費	⑥ 延べ業務時間数	時間	0	0	0	0	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	0	0	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	11,448	11,448	11,448	11,448	11,448
備考							

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

観光客の誘致を広域的に実施することで、相乗効果が図られるとともに、効率的な事業展開が期待され、雇用拡大や地場産品等の販路拡大や売上高の増加に貢献できることから、施策体系との整合性が図られている。

② 市の関与の妥当性

岩手県や広域市町村と連携して事業を展開することにより、より広域的な地域振興が可能となることから妥当である。

③ 対象の妥当性

広域圏全体への観光客誘致のため、さらに効率的な事業展開を図るよう整理していく余地がある。

④ 廃止・休止の影響

広域全体の観光振興を図るためには、盛岡市が拠点となっていくことが必要不可欠であり、廃止または休止することは広域観光圏全体へ大きな影響がある。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

広域管区県内の自治体及び観光関係団体との連携や民間を活用した事業展開など成果の向上を図る余地がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

観光客の増加により生まれる経済効果は、民間の活力を増長し、結果として広域観光圏全域に受益をもたらすこととなる。

(4) 効率性評価

広域観光圏域内の類似団体や類似事業について関係団体と協議を進めることで、負担軽減や成果の増大が図られる余地も考えられるが、近年の経済状況から構成団体の負担金減額せざるを得ない状況もあり運営面で厳しい状況もある。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

広域観光圏内の事業について、関係団体と事業展開や事務負担を協議しながら、整理統合を図ることで効率的な事業展開の可能性を見出す。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

広域観光圏内の自治体との合意形成、関係する団体等の既得権益等について、相互に有益なものとなるよう、費用分担および収益等を含め協議を進める。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

各広域観光団体の目的達成に向けて、事業実施の方法や事務負担を協議しながら事業の推進を図るとともに、各地の観光素材の掘り起こしや、広域のスケールメリットと観光資源の多様性を生かした施策の推進などについて意見交換する必要がある。

また、盛岡・八幡平広域観光推進協議会については、広域観光圏の整備実施計画が平成 26 年度で終了したことから、平成 27 年度以降は、観光客から選ばれる訪問先となるための新たな事業展開の企画を検討する必要がある。